



「やさしく豊かな心を持ち、共に学び、共に育つ 北小っ子」に！

「全国学力学習状況調査」 「すくすくウォッチ」の結果から



本年4月17日18日に、6年生を対象として国語・算数の学習状況、生活の様子や意識を調べる『全国学力・学習状況調査』が実施されました。

また、同月22日には、5・6年生を対象に、大阪府独自の『すくすくウォッチ』が実施されました。すくすくウォッチの内容は、5年生は「国語、算数、理科の学習状況」、6年生は「理科の学習状況」、5・6年生ともに教科横断型の「わくわく問題」と「児童アンケート」になります。

「わくわく問題」では、すべての教科や活動の中で大切な「課題をつかみ」「文章や図、表、グラフなどを読み取り」「話し合ったり、調べたりして、考え」「表現する」力を高めるための問題が出題されています。「児童アンケート」では、『全国学力・学習状況調査』の「児童質問紙」と同様、生活の様子や意識を調べています。

これらは、本校の学力や学習状況、生活状況のすべてを示すものではありませんが、この調査結果から、今後の教育指導の在り方や本校の授業内容の改善につなげていきたいと考えています。

以下に、結果から分析された、現在の本校の5、6年生の良い点と課題点についてお知らせします。（本校の学力向上にかかわる「研究部」のまとめを加筆・修正したものととなります。）

※アンケートに関する「高い」「低い」の表現は、肯定的回答の割合となります。

【5・6年生の学習面における良い点】

1. 学びに向かう前向きな姿勢

「自分と違う考えを理解しようしている」「話し合い活動を通して、考えを深め、新しい考え方に気づいたりしている」と高い割合で肯定的な回答がありました。多様な意見を受け入れようとする土壌が育ってきています。また、「わからないことがあれば調べる」「自分の考えをノートに書く」など、主体的・探究的な学びに向かう姿勢でも肯定的な回答が府平均を上回る

結果となりました。先生や友だちが話していることや、自分の考えなどを積極的にノート等に書いていくというよい習慣も身につけています。本校では「つながり」を大切に、「学びあう喜び」を意識した学習を進めています。「どのように考えたか、説明する活動をよく行っている」という項目も高いものとなっています。授業の中で、児童が自らの考えをもち、考えや思いを「伝えあう」機会を日常的に設けてきたことが、こうした姿勢の定着につながっているのではないかと考えられます。家の中に勉強できる場所が確保されていることも支えになっていると考えられます。

「主体的に係活動を行う」項目が高いなど、自分の将来の夢や目標に向かって、自主的に自分でやりたい課題を考えて学習に取り組む姿がうかがえました。

2. 基礎的な力が定着してきている

どの教科も、全国・大阪府を上回る正答率となりました。日頃の授業で、練習問題を出題して定着を図ってきました。また、もくもくタイム(朝学習)や宿題、まなびタイム(放課後学習)などで復習を行い、基礎基本の問題を繰り返し練習してきたことも基礎基本の力を底上げする要因の一つになったと考えられます。

3. 最後まで諦めずに取り組もうとする態度が育ってきている

5年生、6年生どちらの学年も無解答率が全国・大阪府平均より低い結果となりました。テストで分からない問題に出合ったときに、最後まで諦めずに取り組もうとする態度が育ってきていることが読み取れます。これからも授業やテストの中で大事にしていきたいと考えます。

4. 記述式の問題において、書く力が伸びている

「わくわく問題」や「理科」では、昨年度課題だった記述式問題で全国・大阪府の平均を上回っていました。学校として子ども同士の対話を取り入れ、「学びあい」「思考を深める発問」等を共有・実践してきたことが、思考力の伸びにつながったと考えられます。また、記述式の問題に日常から取り組んできたことも今回の結果につながったと考えます。しかし、論理的に過不足なく書くことについては課題も見られたので、「根拠をもとに自分の考えを書く」学びを教科全体で共通化していく予定です。また書くのが苦手な子には「キーワードを含めて書く」など具体的な書き方の手掛かりを与える等の指導の工夫を継続していきます。

【5・6年生の学習面における課題点】

1. 学んだことを生活に生かす

「学んだことを生活に生かす」「難しいことにもあきらめず取り組む」「深く考え続ける」といった項目は府平均を下回る結果となりました。これは、学習内容と生活とのつながりや、粘り



強く取り組む経験をもっと意識的に積むことが必要となります。また、「自分のよいところを態度に出さない」という傾向もあり、自己表現や自己発信には慎重さがうかがえました。

今後は、学習と生活を結びつける活動を計画的に取り入れ、学びの意味を実感できるよう指導を行っていきます。例えば、身近な生活課題をテーマにした単元づくりや、学校外の人との交流を通じた発表活動などが考えられます。また、探究活動やプロジェクトを通して、困難を乗り越える経験や仲間と成果を共有する機会を増やすことも大切です。自己表現については、小さな成功体験を積み重ねながら、自信を持って発信できる場の設定を意識的に計画していきます。

2. 学習習慣（6 年）

「学校の授業時間以外に普段一日あたり（塾も含め）どのくらいの時間勉強しますか」との問いに対し、2時間以上する割合は府や全国に比べ8%ほど低く、全くしない割合は、府よりは低いですが、全国と比べると5%ほど高い結果となりました。土日など学校が休みの時の学習時間に関しても、全くしない割合が（25.5%）、全国（17.5%）と比較して高く、児童の学習習慣が全国平均を下回る結果となりました。家庭学習の時間や意欲の課題に対して、児童が自ら学習を調整する力を育むための支援を強化していく必要があります。

また「読書は好きですか」という問いには、本校も大阪府も全国もほぼ 70%で僅差であることから、読書自体は好きであり学校では読書はするものの、家庭での読書の習慣化に課題が見られました。

3. ICT の活用

本校は ICT 活用が進んでおり、デジタル教育の充実が本校の強みと言えます。具体的には、「分からないことがあった時にすぐ調べ、画像や音声を活用することで学習内容がよくわかる」と回答しています。「友だちと考えを共有したり、比べたりしやすい」「友だちと協力しながら学習を進めることができる」と答えた割合も、府や全国に比べて若干高く、ICT 機器が学習に欠かせない状況が見られます。

しかし、「あなたは機器を使って情報を整理する（図、表、グラフを使ってまとめる）ことや、プレゼンテーション（発表スライド）を作成することができるといいますか」という問いに対しては、府や全国と比べて低くなっています。加えて、「分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え工夫することはできていますか」との問いに対して、「できている」「どちらかと言えばできている」と答えた割合も府や全国と比べて若干低い結果となりました。

ICT 活用については、情報検索にとどまらず、情報の整理・表現・発表などの高度な活用へと発展させ、主体的・探究的な学びの推進につなげていくと取り組みを進めていきます。

4. 「測定／変化と関係」の弱さ(算数)

図形の性質や複数のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することにも課題が見られました。算数に限らず、文章を正しく読み取り、比較・関連させてデータを分析する力を育てる必要があります。

複数のデータを読み取る際に、どのデータを重視して分析したのかを説明する機会を増やし、生活に結びついた体験から表→グラフ→言葉へと行き来させる指導を行っています。



【5・6年生の生活面における良い点】

1. 友だちや家族との良好な関係

「友だちと協力するのは楽しい」、「話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている」、「まわりに困っている人がいると、早く解決するといいなあと思う」や「あなたには、困ったときに相談できる友だちがいる」という質問について肯定的回答の割合が高くなりました。友だちと良好な関係を築いていることがうかがえました。また「日直や係活動への自主的な取り組み」が大きく伸びており、学級での役割意識が高まっています。

さらに、「朝食を毎日食べている」「家の人と一緒に、遊んだり、勉強したり、家の仕事をしたりすることがある」、「家の中にホッとする場所がある」という質問も肯定的回答が高かったことから、家庭における人間関係なども良好であることがうかがえました。

2. 「将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたい」という向上心

「将来の夢や目標を持っていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に、多くの児童が肯定的に回答しました。

これまでのキャリア教育や総合学習のとりくみ、学校行事などが、子どもたちが夢を抱く要因となっていると考えられます。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童が多く、子どもたちの自信につながっていると思われます。これからも、一人ひとりが活躍できる場面、認められる場面、ほめられる場面を意識して取り組んでいきたいと思っています。

【5・6年生の生活面における課題点】

1. 生活リズムの夜型傾向

午後10時より前に就寝する割合が、全国・大阪府の割合と比較して低い傾向となりました。夜早く寝て、朝早く起きられるようにするのも、学習を支えていく大切な生活習慣を形成していくうえで、大切な点です。家庭と連携しながら、生活リズムを整えられるよう働きかけていきたいと考えています。

2. 自己肯定感・自己有用感の低さ

6年生のアンケート「自分にはよいところがある」という質問に対して、肯定的な回答の割合が低い結果となりました。実際にはできていることでも、「自分はできていない」ととらえてしまうことが考えられます。学級活動や学校行事を通して、友だちとつながり、互いに認め合える取り組みを行っていきたいと考えます。また、課題のみを捉えるのではなく、その子のもつ「よさ」を肯定的に評価する機会を、学校内外でさらに増やしていきます。

【最後に】

子どもたちの「学習に対する前向きな姿勢」を持続していけるような授業内容、授業展開を、学校全体で進めていきます。課題に挙げられた「図や表、グラフ、資料を読み取る力」「文章で説明する力」を教科の枠を超えて横断的、系統的にさらに高めていきたいと考えます。また、引き続き ICT 機器を効果的に取り入れて、「工夫して相手に伝える力」を養っていきます。また、アンケートの結果から課題に挙げられた「課題に向き合い続ける力」や「学んだことを生活に生かす力」を高めるために、授業だけでなく行事や特別活動などを通して、教科で学んだことを実際の体験や事象と結び付け、生活に生かせるようカリキュラムマネジメントを進めていく予定です。

「将来の夢や目標を持ち、人の役に立つ人間になりたい」と多くの児童が回答したこの思いを大切にして、教職員全体で子どもたちの成長を支えていきたいと考えます。

